知事広聴：平太さんと語ろう
～西豆地区の明日を語る～
発言要旨

日時：平成 21 年９月９日（水）13:00～15:30
会場：西伊豆町中央公民館３階　多目的ホール

１　出席者　（男性7名、女性3名　計10名）
西豆地区において様々な分野で活躍中の方

２　発言意見

No	項　　目	関係部局
1	富士山静岡空港の利活用推進のための海上アクセス 名勝伊豆西南海岸特別区についての規制緩和	観光局観光政策室 教育委員会文化課
2	棚田の保全による地域活性化	建設部農地保全室
3	「松崎蔵つくりたい」の国民文化祭への取組	県民部国民文化祭推進室
4	医療体制の充実 介護施設の充実	厚生部医療室 厚生部長寿政策室
5	津波対策用門扉の自動化・遠隔操作化 大規模産廃施設の県主導による整備	建設部港湾整備室 環境局廃棄物リサイクル室
6	市町合併実現に向けて 農作物の鳥獣被害対策への支援	総務部合併推進室 環境局自然保護室 産業部農山村共生室 建設部農地保全室
7	放流に関する県補助金の確保 夜間灯火によるまき網漁業の規制 漁協合併に対する県支援の上乗せ	産業部水産資源室 産業部水産資源室 産業部水産流通室
8	山林の鳥獣被害対策への支援 間伐事業の継続 材価低迷への対応	環境局自然保護室 産業部農山村共生室 建設部森林計画室 森林整備室 産業部林業振興室
9	遊歩道の亀裂の補修 自然観察実施のための研修の企画	観光局観光政策室 環境局環境ふれあい室
10	「西豆学」の実施 効果的な中高一貫のための枠組みの緩和	教育委員会学校教育課
11	女性会への活動支援（傍聴者からの意見）	県民部男女共同参画室

３ 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
１ 富士山静岡空港の利活用推進のための海上アクセスと名勝伊豆西南海岸特別区についての規制緩和 ・ 富士山静岡空港の利活用推進事業として、カーフェリーを利用した海上アクセスを考えているが、清水港からの利用では国際的な観光競争の中で勝てるか疑問である。 ・ 空港利用者が山梨の方に流れている。海上アクセスの問題を県としても取り組んで欲しい。 ・ 当地域の基幹産業は観光産業であるが、平成３年をピークに観光客は減少を続けている。観光対策の取組みの変化が求められている。今の資源を生かさなくてはならないが、大きなイベントも難しく、歯止めがかけられないでいる。 ・ 昭和 12 年に名勝伊豆西南海岸に指定され、町では昭和 62 年度に保存管理計画も策定しているが、今の観光に生かされているのかというと疑問である。 ・ いろいろな規制をもう少し緩やかにして、観光客に生かされる具体例を検討して欲しい。	・ 海上交通は今は清水港と土肥を結んでいるが、空港との関係では、御前崎と松崎を結ぶというのは、十分に考えられることである。 ・ また、現代は自動車の時代であり、伊豆縦貫自動車道建設については、今は伊豆半島の北から南へ建設しているが、南から北へ建設してはどうかと考えている。 ・ 伊豆には観光協会が多過ぎる。伊豆半島で１つにして欲しい。 ・ 静岡大学人文学部の小山先生が静岡新聞に伊豆半島をジオパークとして届ければどうかと、書いている。私はこれを見ていい考えだと感じた。 ・ 伊豆半島それ自体が地形とか地質学、として、非常に豊かで研究するに値し、見るに値する。西伊豆の海岸を見ただけで、人々は感動する。これを世界の公園として届ける運動をしたらどうか。そうすれば、伊豆が１つになることに繋がる。 ・ また、観光協会を１つにするには、女性たちとの連合を大事にするというのも大事である。私は実は女性の方がつながりやすいのではないかと思う。男女共同参画でお願いしたい。 ・ 何としてでも観光協会を一つにするような動きをして欲しい。
２ 棚田の保全による地域活性化 ・ 平成 11 年に町からふるさと水と土ふれあい事業を使い、棚田を保全し地域の活性化をしてはどうかと話があり、区の総会で相談した。結果エコツーリズムを推進し、オーナー制度を創設することで、都会の方々との交流の場を作り、地域経済、産業活性化の一助にしようと話し合いを続けた結果、数回の総会を経て事業を実施することとなった。 ・ 棚田の復元作業は平成 12 年にボラン	・ 棚田は芸術である。 ・ 「百笑一喜」という名前もいい。 ・ 松崎高校の生徒が関わるというのはとてもすばらしいことである。 ・ オーナーの統計を見てみると、神奈川県と東京都と本県が、大体３割ずつである。これは都市と農山漁村との交流になっている。 ・ 文科省、農水省、総務省、環境省等７省庁が関わった都市の農山漁村交流プロジェクトというのがあるので、

出席者発言要旨	知事発言要旨
ティア 300 人余りで、約４ha の雑木、雑草を刈り取り、焼却作業を行うことからはじめ、その年には約 12ａの田んぼを復元した。今では作付面積約 1.6 ha、オーナーも当初の目標を上回り順調に推移している。リピーターも多くたくさんの交流と賑わいができつつある。 ・ ボランティアについては、富士常葉大学の学生、「一社一村しずおか運動」の認定社、松崎高校の１年生などの支援を受けている。 ・ また、棚田の活用として、２次、３次産業の活性化のため古代米の作付に力を入れている。加工食品、赤米黒米焼酎「百笑一喜」、黒米パン、まんじゅう等に商品化され販売されている。宿泊客も通年で 700 人を数え、観光産業にも寄与している。 ・ みんなで棚田を守ることで、夢を分かち合うことを共通のイメージに、今言われている６次産業の活性化に少しでも貢献できればと思う。 ・ 課題としては、推進委員が高齢化しているための後継者育成がある。 ・ 地域づくり、地域おこしは、これほど難しいことはない。しかし、一生懸命やっていれば、人様は決して見捨てないという教訓を得ることができた。 ・ 少しでも住みよい地域づくりをするために助け合って頑張る、そんな地域でありたいと思う。 ・ 棚田サミットの連絡協議会の理事会で、平成 22 年の松崎町でのサミット開催が決まった。 ・ 開催の要旨は、公開した棚田を有効活用していること。駿河湾を眼下に富士山、南アルプスが眺望できる美しい景観に恵まれていることである。 ・ 大会の開催が成功するよう県の支援と基調講演を知事にお願いしたい。	それに応募し総理大臣賞を取って欲しい。 ・ 今度の棚田サミットの際に表彰状を披露できれば、より効果的。教育にも生かされるし、高校生や都会の人と交流するのは、表彰に値するものだと思う。ぜひ総理大臣賞を狙って欲しい。 ・ 棚田サミットには行くつもりである。

出席者発言要旨	知事発言要旨
３　「松崎蔵つくりたい」の国民文化祭への取組 ・ 自分たちは今年の秋の国民文化祭の参加事業として、なまこ壁の土蔵を建設中である。 ・ 町には200軒のなまこ壁の土蔵が現存している。その多くは明治中ごろから大正年間に建設され、80年を超えている。 ・ これらの保存運動を始めることを目的とした有志が、松崎蔵つくりたいを平成16年に結成して活動している。 ・ 一昨年の秋に国民文化祭が開催されるという話を聞き、今までにない新しい事業として蔵づくりをできないかということで町長にお願いして始めることとなった。 ・ 70年余り新築した記録はなく、ゼロからのスタートとなった。 ・ 若い者が、パソコンのホームページに掲載したため、それを見た方が、協力をさせて欲しい、体験させて欲しいと、遠くは遠州の森町、富士宮市や沼津、さらに山梨県からも来ている。 ・ 建築科の大学院生、工務店の社長など様々な方の協力があり何とかできてきた。 ・ 材料については、町内の間伐材や土など地元でできるものは全部地元のものを使ってやっている。 ・ 国民文化祭の時には、八分どおりできる予定である。文化祭にみえたお客さんには、実際にコテを持ち、なまこを塗ってもらったり、壁を塗ってもらったりという体験をしてもらおうと思っている。	・ なまこ塀はよかった。 ・ 国民文化祭を起点に、既に技術が伝承されてないものを町長や、ボランティアの方々が一緒になってやるというのは、すばらしいこと。松崎の高校生が一緒にやっているというのもいい。 ・ 国民文化祭というのは 10 月の下旬から始まるが、これはこの時期だけの問題ではない。 ・ これからずっと毎年、毎月、毎日が文化祭のような、そういう伊豆半島だけでなくて、ふじの国をつくりたい。それをしないと静岡県は衰退してしまう。 ・ リニア新幹線が2025年に通る。 ・ 今は東海道は幹線で、多くの人が通過しているが、2025年以降は東京と名古屋間のリニア新幹線を利用することになる。だから、この東海道近辺のふじの国の街道を魅力あるものにしなくてはならない。 ・ 国民文化祭は全国の注目が集まり、一つのきっかけになるわけで、出発点になる。 ・ なまこ塀の町としても、あるいは左官の町としても良い。 ・ この地域もジオパークとして芸術性がある。風景がきれいで、人の技術が生きている。そして見て楽しいし、技術も知りたい。全国各地の人が、なまこ塀の技術をここで学ぶようにする。 ・ これからの勉強は現場に出ないといけない。その現場の第１号が今できている。それを多くの町の人が知っていて、校長先生の指導、美術部の部長先生の指導により若い人たちにつないでいるのがすばらしいと思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
4　医療体制の充実と介護施設の充実 ・ 女性会の活動はいろいろあるが、ごみ処理問題、川や海をきれいにしよう、汚水を流さないようにしようという環境問題にも取り組んでいる。また、町のイベントにも参加し、各種委員会にもいろいろと出席して、行政にも携わっている。 ・ そのほか、県の補助金を女性としての資質の向上のための研修に役立たせたり、いろいろな地域のボランティア活動を行っている。 ・ 女性の立場として、医療体制の充実をお願いしたい。 ・ 急病の際、入院ができる病院が非常に少ない。また、若い人が安心して出産できる医療体制をつくって欲しい。産気づいたとき、１～２時間かけ峠を越えて病院に行くのでは、とても不安である。 ・ 結婚してほかの町に嫁いだ女性が里帰りして、親元で安心して子供が産める体制を望む。そして下田の南高の跡地に建設される新しい病院に産婦人科の設置と医師の確保をして欲しい。 ・ 介護問題として、病気になった、体が動かなくなった時、どのようにしたらいいのか、どのようになるのかという不安が尽きない。 ・ 介護施設の充実、老後が地域で安心して暮らせるような地域になるようお願いしたい。 ・ これからも何回も知事に来ていただき、町民の生の声を聞き、きめ細かい対応をしてもらえるよう、お願いしたい。	・ 今日は出席者 10 人中、女性は３人である。これからは 10 人出席者がいれば、半分は女性というようになればよいと思う。 ・ 日本は元々男女が対等であり、それぞれの得意、不得意を生かし合いながら、お互いに助け合って補完し合うということがとても大切である。その意味で、女性会の活躍には大いに期待する。 ・ 医療問題は伊豆半島だけでなく、全県的に深刻な問題を抱えている。 ・ 道路が十分に整備されていない地域にはドクターヘリを飛ばすということを考えたが、ヘリが夜間飛行するためには、夜間飛行用として初めから作らなければならない。自衛隊にも協力して欲しいとお願いしたが、いい返事は得られなかった。 ・ 産婦人科がないというのは、実は全県ほとんど同じである。医師と助産師を上手に組み合わせてやる方法があるそうで、私も研究中である。 ・ 子供を育てられる環境も含め、出産、育児は最重要課題と考えている。 ・ せっかく空いた下田南高校の跡地に病院を作るのはありがたいことだと思っていたが、某病院の先生方はそこに勤務しないそうである。その理由の１つに地域に貢献していただいたお医者さんに対して、大事にしようという空気が育っていないことがあると感じた。県下全体でお医者さんを大事にするという文化を育てたい。 ・ 自分の持っているあらゆる可能性を通して医療機関を整備したい。一方、基幹病院の先生方が非常に厳しいことも事実なので、県がお金を出すことで、診療所の先生と基幹病院とが上手に補完し合えるようなネットワークを作ることを提案しようと思っている。 ・ 今具体的に伝えることができないのが残念だが、医療についての問題は共有している。

出席者発言要旨	知事発言要旨
	・ 女性会が行政にもっと関わってきて欲しい。 ・ 女性にとって大事な問題ワーク＆ライフバランスをどうするかなどを、現場に入って一緒に提起できるようになって欲しい。
５ 津波対策用門扉の自動化・遠隔操作化と大規模産廃施設の県主導による整備 ・ 県内各港で水門門扉の自動化、遠隔操作化が進展している。 ・ 宇久須港湾には、門扉が 15 基あり、そのうち電動化されている大型の門扉が５基ある。町の担当者の説明では、５基のうち４基は自動化、遠隔操作化の対象となるが、１基は費用対効果の面からその対象にならない。何とかやるように努力はするけれどもどうするかわからないということであった。 ・ 各港でも同じことが起きるのではないかと思うが、10 のうち９つできても１つできなければ、効果は半分になる危険がある施設だと思う。 ・ 予算がどうしても足りないのなら、ステップ・ダウンし、とにかく全部が自動的に閉鎖されるようにして欲しい。 ・ そうしなければ、せっかく投資したものが万一のときに役に立たなくなる危険がある。	・ 津波を防ぐ門扉について、金が足りないとか、費用対効果ですべてを作らないというのはもってのほかである。これはすぐ調べる。 ・ 実際被害に遭ったときのことを考えなくてはならない。そういう観点ですぐに調べてみる。
・ 平成 20 年度の組織の役員が一番頭を悩ませたのが、民間業者から宇久須の山の上にある鉱山の跡地に大型のアスベストと焼却灰の溶融処理施設を作りたいという話があったことである。住民の意向を決めるため、侃々諤々話をしたが、結局健康被害に対する不安、観光業に対する風評被害の不安が主な理由で、住民の同意が得られず、宙に浮いた状態になった。 ・ アスベストやダイオキシンについて、資料を集め勉強したが、純民間で処理施設をつくるのは無理であり、公が関係しないとうまくいかないのではないかと思う。 ・ 施設自体が必要なことは理解できた。 ・ 産業廃棄物の発生量と施設の性格か	・ アスベスト、ダイオキシンといった産業廃棄物を県外に出しているというのは、きちんと都道府県間での合意があれば別だが、そうでなければ本当に問題である。 ・ 県が公益に資するということで、税金をここに投入するに値するということになれば、県全体で一つにするのか、地域で幾つかのところで分担して、負担を分かち合うのか、場所をどうするかはなかなか難しいが、廃棄物について、きっちりと納得づくで処理する必要がある。 ・ 今のこの問題については、知らなかったが、原則としておっしゃることには賛同している。

出席者発言要旨	知事発言要旨
ら、県主導で県内に大型の施設を１カ所作り、アスベストも焼却灰も溶融無害化してリサイクルする必要がある。 ・ 現在はアスベストも焼却灰も、県内の場合、他県へ持ち込んで埋め立て処理しているというのが、一般的である。静岡県から出た廃棄物をよその県で埋め立てするというのも随分気が引ける話だと思う。 ・ 国の指導や補助もあるようだが、ぜひ検討して欲しい。	
６　市町合併の実現に向けて、農作物の鳥獣被害対策への支援 ・ 伊豆太陽農協は、元は４つあった賀茂地区４農協が 19 年前に「賀茂は一つ」という合い言葉で合併をしたものである。 ・ 市町合併でいよいよ１市２町になると思っていたら、つい最近御破算になった。農協、行政が一体となり、この地区の農業振興に真剣に取り組んでいかないといけないと感じている。 ・ 「賀茂は一つ」という形で協議が再開され、実現して欲しい。また、知事にもその方向でリーダーシップを発揮して欲しい。 ・ 西伊豆の農業は、大変零細で、農業者の高齢化が進み、担い手が思うように後を継いでくれない状況であり、ますます規模が縮小し、放棄耕作地が非常に問題になっている。 ・ その農業の衰退に拍車をかけているのが鳥獣の被害である。 ・ この対策には、何と言っても行政、農協、猟友会と耕作者、この４者が一体になって取り組んでいかないと、被害は拡大するばかりである。 ・ 農業、林業については、この鳥獣害の被害に本当に頭を悩めており、行政や猟友会と一体となって取り組むよう支援をして欲しい。	・ 「賀茂は一つ」という目標の話があったが、議員だけが行政に責任を持つのではなく、地域住民がその仕事をボランティアのような形でできれば、議員は要らなくなる。 ・ いろいろな方法があると思う。土日にしか議会を開かないということになれば、誰でも議員になれる。 ・ いろいろな形でどこかで汗をかかないと、補助金漬けになってしまう。 ・ 私は例えば財政力指数が非常に低いと、そこに援助しようと思うが、汗をかかないところに援助はしない。努力をしてもらわないと困る。 ・ 農業が零細で、日本の農業全体が凋落しつつあるように見えるが、日本の農業は芸術であり、非常にレベルが高い。 ・ ところが静岡県だけで 12,000ha が遊休地になっている。このうち、今使えるとされるすべての 2,000ha を４年間で使う計画を立てている。 ・ 鳥獣被害の問題については、自分も標高 1,000ｍのところに住んで実感している。 ・ 適正頭数がどれぐらいか専門家に見てもらい、人間と、シカやイノシシやサルの棲むところの棲み分けをきっちりしなければいけない。適切に強制的な態度に入らざるを得ない。

出席者発言要旨	知事発言要旨
7　放流に関する県補助金の確保、夜間灯火によるまき網漁業の規制、漁協合併に対する県支援の上乗せ ・ つくり育てる漁業として、静岡県でも漁業振興基金を中心に、この 10 年ぐらい年間約 100 万匹を目標にマダイの放流事業を行ってきた。しかし、県の補助金がカットされたため、放流匹数がだんだん減ってきた。 ・ 近海漁業は、だんだん規制等が強化されており、今後の漁業は沿岸漁業にシフトしていく方向にある。 ・ 沿岸漁業の振興のためには、積極的にどんどん放流していく必要がある。	・ 遠洋漁業から沿岸漁業に代わるのは全体の趨勢。人工的な養殖をしていかざるを得ないと認識している。 ・ これからの日本における漁業の将来を静岡県が提示し、沿岸漁業でしか日本の漁業文化は支えられないという認識ができあがれば、補助金を上げる下げるかの問題ではなく、本腰を入れた漁業の建て直しができると思う。
・ 漁業には、一本釣り漁業とまき網漁業があるが、まき網漁業で、違反操業が多いということで悩んでいる。 ・ 一旦そこの資源が断たれると、なかなか資源が回復しない。 ・ 特に夜間に灯火を使って、魚を沖にずっとおびき寄せて、網で巻いてしまう漁法に困っており、灯火を使った夜間のまき網漁業の規制ができないか長年要望している。 ・ 全国的にみると灯火を使用したまき網漁業を許可している県のほうが少ないのではないか。他県の状況も調査し、共存共栄できるような方法を図っていく必要がある。	・ 全国で夜間灯火して一本釣りの方を怒らせているのが、もしこちら側の事情だとすれば具合が悪いので、調べてみる。
・ 静岡県では、平成 18 年に県下４漁協構想を打ち出し、県下４つの漁協に合併しろということで、今、合併推進をしている。伊豆地区は、現在、８漁協が１漁協になったが、残りの漁協の合併がなかなか進まない。 ・ その一番大きな問題点は、各漁協の財務の格差である。合併によるメリットがなければ、合併は進まない。 ・ 国には、負債がある漁協の合併に対して、利子補給などの支援がある。県も国の支援に準じて、上乗せの支援をして欲しい。 ・ 漁協の体質を強化しないと、漁業の振興は難しい。	・ 漁協の経営について、合併すればメリットがあるようにという話だが、これは、相談させて欲しい。すぐには、「はいわかりました。」と言う訳にはいかない話である。

出席者発言要旨	知事発言要旨
８　鳥獣被害対策、間伐事業の継続、材価低迷への対応 ・ 西豆２町の森林面積の割合は、ほかの市町と比べてかなり多いと思う。以前はスギ、ヒノキは建築用材、広葉樹は薪炭として利用されていたが、現在の利用はほんのわずかで、ほとんど利用されてない。 ・ そういった中、山林の手入れをし、機能を高め、樹木の成長に合った使い方をして、山林の有効活用をしたいと思っているが、なかなかうまくいかない。 ・ その理由の１つにシカの害がある。スギ、ヒノキの苗木が被害を受けている。対策として２ｍぐらいのネットを張ったりしているが、なかなか有効な手段がない。そのため、民間でスギやヒノキを植林する人がいなくなってしまった。 ・ 動物同士の縄張りを利用した良い方法はないかと思っている。検討をお願いしたい。 ・ ２点目は、スギ、ヒノキの人工林には間伐を行うが、県では平成 18 年度から森の力再生事業による間伐の整備を始めている。この事業が大変役に立っているが、平成 22 年に事業の見直しを行うことになっている。山林の手入れには間伐が欠かせないので、引き続きより広範囲に事業が行えるような見直しと、事業の継続をお願いしたい。 ・ ３点目は業界全体が、材価の低迷等で、零細の状態が続いており、成長の止まった山林が増えている。このままでは、山林としての機能も失われてしまうのではないかと心配している。 ・ 伊豆は市場や消費地から遠く、合板や集成材の工場からも遠いため、価格面だけでは太刀打ちできない。 ・ 地元で新たに利用する方法を考えているが、森林や林業に対する知事の考えを伺いたい。	・ 昭和 30 年代、国内では木をたくさん植え、同時期に外材を使うシステムで家をつくるようになったが、これを変えなければいけない。 ・ 静岡県では、毎年 100 万㎥が使える森林として出来上がっているが、30 万㎥しか使っておらず、日本の価格が相対的に安いにもかかわらず使わないのは問題である。 ・ 私は、「生活空間倍増計画」をつくってみようと思っている。今１世帯当たり 100 ㎥であるのを 200 ㎥にする。 ・ それができるところは、地価の安いところ、いわゆる限界集落とか、過疎地帯と言われているところであり、エコシティのようなものをコンセプトとする。 ・ この地域で、21 世紀の人間のライフスタイルの理想形としてやってみて、地産のものも使うとよい。 ・ 県内にはすばらしいスギ、ヒノキがあるが放置されている。木材の流通経費が高いので援助し、大きな建物をつくる場合、県産材の割合が一定レベル以上でないと絶対認めないというふうにしていく。 ・ 日本の森林が全体の 60%を占め、経済林がそのうち５割弱を占めているが、放置されているので、静岡県においては、これを活用するモデルをつくりたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
９　遊歩道の亀裂の補修、自然観察実施のための研修の企画 ・ ７年前から人づくり推進員をしているが、連絡協議会を立ち上げて行う活動に２年間の補助金を出す県事業があり、親子で西伊豆の美しい山や川や海に親しんでもらうことを目的に、西伊豆の自然と親しむ会を発足させた。 ・ 活動の中で９月 12 日に安城岬に行く予定になっており、下見をしたところ安城岬の遊歩道のところに風水害の影響か、少し亀裂があるところがあった。観察会は何とかやれると思うが、こういう道を直してもらわないと危険で、活動ができなくなることに懸念を持っている。 ・ 去年、西天城高原で計画したが、下見の後、雨が降って、道路に泥が流れてしまい危ないから急遽変えたこともあり、何かそういうようなことが伊豆の山には迫ってきているんだなと感じている。 ・ 私たちの活動では小学６年生とか高学年になると会から退会していくことになるが、去年、松崎高生になった会の子が手伝いで参加してくれ、活動をしてきた意味を感じた。 ・ 活動するためには保険に入ったり、案内状の郵送などの費用がかかるが、補助金がないため会費を集め、また教育委員会などの協力も得ながら細々やっている。 ・ 世話人も、あと 10 年ぐらい経つと、足腰が弱ってくるので、後継者や世話人、リーダーの方たちへの自然観察実施のための研修を企画して欲しい。それも、修善寺とかこの下田とか、近場で実施してくれれば参加できると思う。	・お二人の発言で共通しているのは、「地域の子供は地域で育てる」である。その場合の先生は、学校の先生ばかりではなく、それぞれの職場など、すべての大人がすべての子供たちに対してどこかで先生の役割を果たせるということである。 ・西豆学というのは、地域学であり地域のことを知るためには、地域に出ていかねばならない。したがって、先生も他の分野の方々と協働しなくてはならないということで、コーディネーターのような方を育てることが、これからの教育委員会や、地域の教育に関わっている方々の仕事になってくる。 ・制度上、小学校、中学、高校でそれぞれ町立や県立というように分かれているが、一貫していかに育てるかという観点から考えるべきである。例えば厚生労働省と文部科学省の所轄に分かれている幼稚園と保育園の問題もそうで、幼稚園と保育園と一元的にして、小さな子供たちがよりよく育つように協力をすることが大事である。制度上のいろいろな抵抗に遭われているのは、今は当然だと思うが、これは突き破らないといけない。 ・ これからの学問は、地域学、自然学でなくてはならない。そのためには地についたところに生きている、生活している人々がすべて先生になるという使命感を持たねばならない。 ・ したがって、学校の先生と地域の人たちが協力してやっていく、行政の仕事に就いている人も全体のステータスを上げていくという視点で、全体がボランティア精神を持ち、ボランティアの人はレベルが低いとかの考え方は早く過去のものにしていく時代が来れば、お二人のお仕事が報われる時代が来ると思うが、今しばらく抵抗勢力が相当強いと思われるので、負けずに頑張っていただきたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
10「西豆学」の実施、効果的な中高一貫のための枠組みの緩和 ・ 当地区では昨年度より１高校３中学の連携型の中高一貫教育に取り組んでおり、「西豆の子は西豆で育てる」を合い言葉にプログラムを考え、その柱として「西豆学」という学習を行っている。 ・ 「西豆学」は、各４校が従来総合的な学習として行ってきたオリジナルの課題学習、地域学習をまとめた中高５年間で行う総合的な学習の時間で、中学生では地域理解を、高校生では地域貢献、そして進路実現につなげていくことを大きな柱としている。 ・ 中高一貫教育の教育活動をより効果的に、充実したものにしていこうと考えたときに、学校というシステムの中で踏み込めないことが幾つかある。 ・ 具体的には、私は中学生の交流事業で毎週１時間英語の授業をやっていたが、中学３年生の英語全体を受け持つことができれば中学と高校の学習内容をうまく接続できるのではないかというようなこと、また高校１年生で学習する内容を中学３年生の後半の部分で教えられるのではないかというようなことがあるが、ここの中高一貫教育が連携型であるためそれができない。 ・ この活動の中でジレンマに感じていることは、やはり地元３中学からよその地域の高校へ行くこともできるのが連携型の一貫教育であるので、町立の中学校、県立の高等学校という大きな枠組みをある程度越えることができれば、もう少し効果的な中高一貫教育ができるのではないかと感じている。	（９と同じ）

出席者発言要旨	知事発言要旨
11　女性会への活動支援 ・ 西豆の女性会としての活動の中で一番ネックになるのがお金で、金銭的な面倒をみていただければ、もっと元気がでると思う。 ・ 県の女性会の連絡協議会はいつも静岡市で開催されるが、９時開会では出席するのは難しい。現在は本当に重要な会合にしか参加していないが、参加しないとわからないことが増えてくる。みんな同じように行動がとれる体制をつくりあげていきたい。	・ 静岡市だけが県の代表とは思っていないので、西で、中部で、あるは伊豆で行うことが自然にできないといけない。 ・ 女性会の方々が活動しやすい条件づくりをつくり上げることを約束する。なるべく早くやるので、暫く現状のままで頑張って欲しい。
	まとめ ・ 医療問題などすぐにできないこともあるが、水門の問題は、すぐに改良できると思う。 ・ 一番必要性のある問題がここにあり、生の声を聞かないとわからないから、私は、ここに来た。 ・ 一人の問題で解決できないことは町で、町で解決できないことは賀茂地区、県でとなり私の出番となるので、一緒にやっていこう。 ・ 静岡県のために自分たちに何ができるかという広い心を持ち、私も西伊豆のために何ができるかを考え、両者で力を合わせると、きっと西伊豆は元気になれる。 ・ 今回いろいろ語ったことが、３年でこう変わったとか話せるようにしたい。 ・ 来年の棚田サミットには行きます。また、お目にかかるのを楽しみにしている。